

## 真夏の「サイエンスカフェ」

8月16日に人間文化研究所サイエンスカフェが行われた。お盆休みの開催で、どれだけ集まるか当日まで不安であった。猛暑のなか22名の参加があり、内心ほっとした。顔なじみも多く、いつもの調子で話げできた。

今回のテーマは「COP10と名古屋の観光まちづくり」である。まず、名古屋の個性と魅力について、各種調査の評価から話を始めた。いま話題の村上春樹さんらによる『地球のはぐれ方』の「魔都、名古屋に挑む」も紹介した。



あまり芳しくない評価が多いなか、魅力アップの戦略手段として、観光まちづくりを提案した。座長を務めた名古屋の観光推進を考える研究会の成果から、節目の2010年に向けCOP10開催とからめ「都市型エコツーリズム」を提唱して、今後の課題を問題提起した。

1時間余り話して質疑に移った。最初から厳しい？質問・意見が飛び出したが、示唆に富んだ意見や提案も多かった。広域的な視点、札幌など都市比較による



名古屋論、名古屋の魅力や観光資源の再発見、魅力アップに向けたNPOや住民の役割など、名古屋の観光推進を考えるうえで参考になった。

嬉しかったのは、参加者から後日お礼のハガキが届いたことである。そこにも名古屋のまちづくりについての提案が書かれていた。ただ残念だったのは、環境と観光とまちづくりの連携、「都市型エコツーリズム」について、あまり反響がなかったことだ。10月の市民公開講座や観光の講義に向け、説得力を高めるために?努力していきたい。

(2009年8月26日 記)